

上州歴史的建造物所有者の会

代表者	小見 やよい
所在地	〒370-0001 群馬県高崎市中尾町 1131 番地 (事務局)
設立年月日	2003年1月18日
URL	http://josyurekisi.hp.infoseek.co.jp/shoyusyanokai/syoyusyanokai.htm

設立趣旨

私達の身近に残る歴史ある建物は、単にその所有者個人のものでしょうか。歴史ある建物やそれを支える伝統的技術は、まちづくりをより魅力的にする資産・手法として捉えれば、それは地域社会を豊かな厚みのあるものに形成発展させることに寄与し、地域の歴史や文化を継承してゆくうえで極めて大切な宝であり、地域社会の共通の資産であると考えます。しかし、建物の維持保存は所有者の肩にのしかかり、残したい本人の願望には、大変な苦勞が伴う実体があります。それならと、建物を残していくことが決して無駄ではなく、所有者の喜び繋がることであり、地域の人たちにも理解してもらえるような活動を志そうと、維持保存に苦勞している同じ境遇の仲間が集まり、平成15年に「上州歴史的建造物所有者の会」を設立しました。共通する悩みを語り合い交流を深め、情報交換をし、研鑽できる場です。亀の歩みの如くですが、コツコツと地道な活動を続けています。会員は群馬県内が中心となり、登録文化財所有者を含む歴史的建造物所有者を先頭に、サポートする所有者ではないが心ある理解者とともに活動しています。

沿革

設立以来、年間を通して、会員同士の交流会、研修会、市民の理解を深めてもらう歴史的建造物を訪ね歩くまち歩き活動を行っています。活用にも取り組み、平成16年に会員のレンガ蔵でコンサートを開催しました。平成17年にはこれまでの活動と会員の建物を紹介する展示を高崎市内の田町ギャラリーで行いました。平成19年には、会員自らが取材編集をおこない『想いが残る 思いが残す -上州の歴史的建造物1-』を出版しました。歴史的建造物所有者のプライベートな家族の歴史、建造物にまつわる珍しい話、建物を修理中の苦勞話、将来のことなど、できるだけ所有者の生の声が伝わるよう取材編集を工夫しました。群馬県内の公共図書館へ寄贈し、同じ所有者の参考に、市民の理解に役立つことを期待しています。1冊目は高崎市内の歴史的建造物を取り上げましたが、引き続き県内に対象を広げ次の出版に向けて取材を開始しています。平成21年にはこれまでの活動が評価され高崎市の「文化財保護賞」をいただき、さらなる活動の励みにしたいと思います。



交流会の様子



レンガ蔵コンサートの様子

活動目的

維持保存に悩み苦勞している所有者を孤立させないためにも、会員宅を巡る形で、同じ立場の所有者が意見や情報の交換ができる交流会を会員の住まいである歴史的建物で行っています。会員自身の案内で、維持保存に苦心したことなどの説明を受けながら見学します。会員同士のおかれる状況を共有することで、少しでも今後の展望が開けることを期待しています。さらに、閉鎖的だった建物の一部でも市民に開

かれるようになることで、地域社会の応援を得て保存の後押しとなる機会となればと、不定期ですがコンサートや展示会場への活用、会員建物の見学会といった活動に取り組んでいます。

活動内容

活動は年間2~4回の会員同士の交流会と地域住民に対して当会や歴史的建造物を知ってもらうためのまち歩き、会員や一般市民も参加できる研鑽の場としての伝統文化講座、研修会を行っています。「安政を歩こう」とネーミングしたまち歩きは、一般市民を対象にし、安政時代の高崎城下の絵図を片手に、移ろいの中にも歴史の断片を発見しながら会員の案内で高崎を訪ね歩き、途中に会員建物も含めた歴史的建造物を訪問しながら2時間程度歩きます。伝統文化講座としては、建物の維持保存修理の時の知識を得るために伝統技法を学び職人と交流する「左官講座」「漆講座」「藍染め講座」、会員所蔵の主に江戸時代の古文書を読み下し、歴史背景を明らかにしようと設けた「古文書読解講座」を行っています。左官講座では、粘土採取場の見学から木舞掻き、荒壁塗り、中塗り、仕上げの漆喰まで一通りの工程を衝立づくりとして実習しました。貝殻を埋め込み、葉の模様を転写するなど参加者がおもいおもいに衝立を完成させました。漆講座では、修理中の建物の床板を拭き漆で仕上げる実習を行いました。研修としては、平成18年には、宮大工が修理中のお寺の山門を工事中に足場に登り、間近かに見学し、伝統工法の説明をしていただきました。平成20年には先進的に歴史的建造物でまちづくりに取り組む小諸を訪れ見学をし、これまでの取り組みや課題についての意見交換をしました。



安政を歩こうの様子



左官講座の様子



漆講座の様子

活動上の課題と今後の展望

所有者会員は高齢の方も多く、交流会への参加も今後ますますおぼつかなくなるのは間違いありません。後継者の参加も促していますが、各家の事情もあり思うようにはいっていません。傷む建物が多いのも事実で、相続というハードルを越えて、受け継がれるのか、後継者の顔が見えないところが不安なところです。会員の中には、魅力ある歴史的建造物に再生して、後継者に受け継がせようと修理に取り組む事例もでてきました。建物の痛みの修繕にとどまらず、周囲の誰しもが認める魅力ある歴史的建造物であれば、後継者にとっての誇りとなります。誇りと感じられる歴史的建造物に再生する応援をしてゆく活動にも取り組み、後継者の顔が見える会に発展してゆければなにと考えます。